

ミュージアムを支える人々 People supporting the museum

03

ふじのくに地球環境史ミュージアムは、県の事務職員や研究員以外にも多くの関係者によって運営されています。このコーナーでは、インタビューを通じてミュージアムを支える人々の仕事や、その素顔を紹介していきます。



NPO 法人静岡県自然史博物館 ネットワーク

● 佐々木 彰央
★ 佐々木 歩

- 1985年東京都狛江市生まれ、八王子市育ち。
- ★ 1990年和歌山県海南市生まれ。NPO法人静岡県自然史博物館 ネットワーク事務局員として研究、教育普及活動、標本作製や展示活動を行っている。二人は2017年秋に結婚した。

アクセス

〒422-8017 静岡県静岡市駿河区大谷5762(旧 静岡南高校)

🚗 自家用車でお越しの場合(ナビでお越しの際は、住所で検索してください。)

- ・ 東名高速道路静岡ICから15分
- ・ JR静岡駅から20分
- ・ 駐車場 無料(200台)

🚌 公共交通機関でお越しの場合

- ・ 静岡駅北口バスターミナル [8-B乗り場から美和大谷線「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行き(約30分)終点下車]

ふじのくに地球環境史ミュージアム NEWS LETTER

発行：ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課

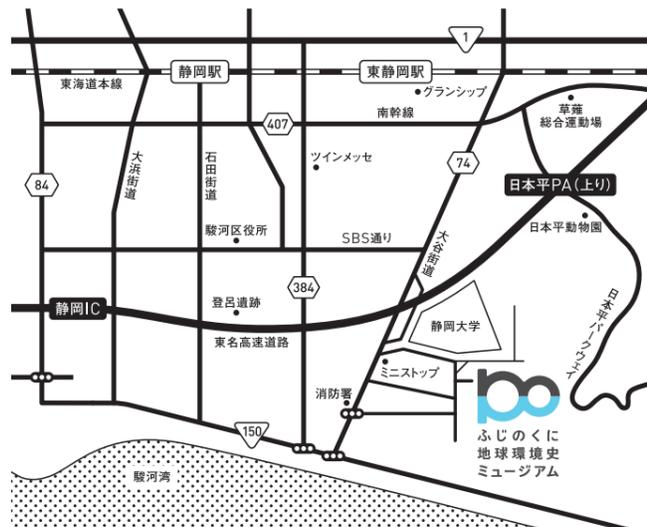
[TEL] 054-260-7111 [FAX] 054-238-5870

[E-mail] info@fujimu100.jp

[ホームページ] www.fujimu100.jp

🐦 https://twitter.com/fujinokuni_NEM

📘 https://www.facebook.com/fujinokuninaturemuseum



百年後の静岡が豊かであるために

NEWS LETTER



ふじのくに地球環境史ミュージアム ニュースレター

☐ 廻る季節 ☐ ミュージアム GW イベント・連続講座 ☐ ミュージアムダイアリー ☐ ミュージアムを支える人々

[vol.009]



めぐ 廻る季節

高校からミュージアムへ引き継がれたサクラの木

ふじのくに地球環境史ミュージアムの前身である県立静岡南高校が開校したのは、昭和58年。第二次ベビーブーム世代が高校生になった時、生徒の受け皿が不足するという急ぎ建設されたこの校舎は、風致地区である有度山西端の山林や果樹園を開発して整備されました。高校の敷地内には、自然景観の保全のため樹木や植栽帯が植えられ、春には桜を楽しむことができました。

私が初めてこの地に来て、6年目の桜がまもなく満開を迎えます。1年目の桜は最後の静岡南高卒業生を送り出し、2年目の桜は、高校から博物館への大規模改修工事を見守り、3年目の桜は年度末の開館に向けて着任したミュージアムの職員と研究員を迎えてくれました。4年目の桜は開館直後のミュージアムを紹介するSNSを彩り、5年目には再整備された自然観察路の展望台から桜色に染まるミュージアムを眺められるようになりました。かくのごとく3月・4月という季節だけを切り取っても、ミュージアムはそこに居る人々の営みにより、日々進化(深化)を続けています。

このたびの定期異動により、5年間関わったミュージアムを離れることになりました。ここで共に励んだ仲間と離れることは、率直に言って寂しいです。しかし、教員と生徒が去り無人となった廃校舎が、世界から評価されるミュージアムに進化を遂げた、このカンブリア大爆発のような激動の5年間に立ち会えたことを、誇りに思います。

6年目の桜とともにミュージアムの更なる進化を願って
企画総務課 山下 浩平